

歲月不待 (さいげつふたい)



輪島市立門前中学校 2年学年通信 第29号 2020. 2. 18

道徳通信 第35回「新しいものを生み出すときに」 小畑先生

ドラマ「下町ロケット」のモデルになった植松電機の専務取締役、植松努さんのお話を視聴し、『新しいものを生み出そうとする時にはどのようなことが必要か』話し合いました。植松さんのお話を聞いて、生徒から「ありがたい話や〜」「説得力あるわ〜」というつぶやきが聞こえてきました。

「どーせ無理」はおそろしい言葉。「どーせ無理」と言うだけで何もせずに済む。自分にはどーせ無理だからと諦めることができる。人の自信と可能性を奪う恐ろしい言葉です。

夢ってなんだろう？
できそうな夢しか見ちゃダメなんではしょうか？
今できないことを追いかけるのが夢っていうんじゃないの？

そしてこの言葉を教えてくれるのは、やったことがない人。やったことがない人が適当なやらない言い訳を教えてくれるのです。

生徒感想

どうせ無理という言葉を使うぐらいなら、失敗を恐れずにチャレンジしたい。

僕はこの授業を受けて「思い続ける」ことを特に大切にしたいなと思った。そして、その思いに向かって努力をし、自信をつけることをこれからやっていきたいと思った。

今日の授業で「失敗することは恥ずかしいことじゃない」と聞いて、これからやっぱり挑戦という事を大事にしていきたいと思った。だから人の目を気にしたり、人と競争したりという事よりも自分自身との戦いだと思い、毎日頑張りたい。

Where there is a will,
there is a way.
(意志あるところに道は開ける)

「どーせ無理」という言葉に頼って楽な道を歩くのではなく、誰も歩いたことのない険しい道に強い意志をもって挑んでみてください。

～小畑先生より～

<最近の様子>

